

J A 自己改革推進レポートについて

令和5年11月24日
J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A 鳥取中央の取り組み

①ブロッコリーの肥料費削減に向けて、平高畝栽培での湿害対策、局所施肥を実演

J A 鳥取中央琴浦ブロッコリー生産部と鳥取県東伯農業改良普及所は9月5日、琴浦町でブロッコリー栽培における平高2条植栽培と局所施肥の実演会を開催した。この実演会は、ブロッコリーの生産量の安定化や肥料価格の高騰への対応を目的に開催され、生産者など約20人が参加した。

ブロッコリーは湿害に弱く、水田転換ほ場では長雨の被害を受けやすい特徴がある。この問題に対応するために考えられたのが「平高2条栽培」。この栽培方法は、1つの畝に2条の苗を植えることで苗と苗の間に水がたまらず湿害に有効である。

肥料の使用量を減らすために有効な施肥方法が「畝内局所施肥」。畝の中で根が張る深さ10～15cmに筋状に施肥することで肥料の使用量を減らし、肥料費を減らす。

この日は前日の大雨の影響もあり、平高2条栽培に使用する定植機や畝立ての機械の説明のみとなった。後日、実証ほ場でそれぞれの栽培方法、施肥でのブロッコリーを検証した。

同部寺岡昌一部長は「秋の長雨で湿害は発生しやすい。確実に良いものが収穫できるなら機械を買いたい」と話した。



②将来の担い手に梨の収穫体験

J A 鳥取中央倉吉梨生産部会は9月9日、倉吉市内梨団地で、行政と連携して農業体験会を開催した。県内外から7人が参加し、出荷を迎えた県オリジナル梨「秋甘泉」を収穫した。収穫体験や生産者との交流を通じて梨の栽培の楽しさを知ってもらい、将来の担い手の確保を図る。

今年6月に行われた梨の袋掛け体験にも参加した中島さんは「梨の栽培に作業の楽しさや持続可能な将来性を感じている」と話した。また、同J A 倉吉梨選果場内も視察し、参加者は活発に質問した。



③「鳥取すいか」販売36億8808万円！単価は4年連続で過去最高を更新

J A鳥取中央とJ A全農とっよりは9月21日、倉吉市で「令和5年度鳥取すいか販売御礼の会」を開いた。会には全国市場19社のほか、管内4つの産地の生産部の役員、行政も出席し、盛大に執り行われた。

令和5年度の「鳥取すいか」は、1kg当たりの平均単価が256円と4年連続過去最高で、販売金額は36億8808万円を記録した。出荷開始時に荷動きが悪かった中での市場各社による売場の確保、生産者が丁寧に丹精こめて育てたことで前年より「秀」の割合が増加したことや、県内外の量販店やイベント会場で積極的に試食宣伝販売できたことが要因となり、高値での販売、36億円を超える販売金額が達成できた。

来年度も更なる販売の増加を目指す。同J A西瓜生産部の山脇篤志部長は「コロナ禍が明け販売促進ができるようになった。来年は大型量販店で大きな販促を行いたい。」と意気込んだ。



以上